

椎葉在来アワにおけるマルチ栽培の適性評価

【題名の補足】 椎葉在来アワのマルチ栽培により、省力・低コスト化が図られました。

背景・目的

- 椎葉在来アワは、近年の健康志向の高まり等の影響もあり、高値で取引されています。
- 生育期間中に登録のある除草剤がなく、手作業による除草作業に大きな労力がかかっています。
- 慣行栽培とマルチ栽培の労働時間及び経費を比較し、マルチ導入について評価しました。

成果の内容

- 労働時間は、マルチ栽培（図1、図2）の方が慣行よりも短く、作業の省力化が図られました（表1）。
- 資材費と労働経費の計は、マルチ栽培の方が慣行より低く、低コスト化に繋がります（表1）。
- 収量は、マルチ栽培を慣行と比べて、減収することはありませんでした（図1）。



図1 生育初期 マルチ栽培



図2 生育後期 マルチ栽培

表1 労働時間及び経費の試算

| | 労働時間 (10a・1人) | マルチ資材費及び労働経費 ³⁾ (円/10a) |
|-------|-----------------------|---------------------------------------|
| マルチあり | 36時間50分 ¹⁾ | 43,170 |
| 慣行 | 75時間02分 ²⁾ | 59,510 |

1) 手作業によるマルチ設置時間 36時間50分、除草作業 なし

2) マルチ設置時間 なし、手作業による除草作業 75時間02分

3) マルチ単価 2,651円/本、労働時間をもとに、宮崎県の最低賃金 793円を用いた試算

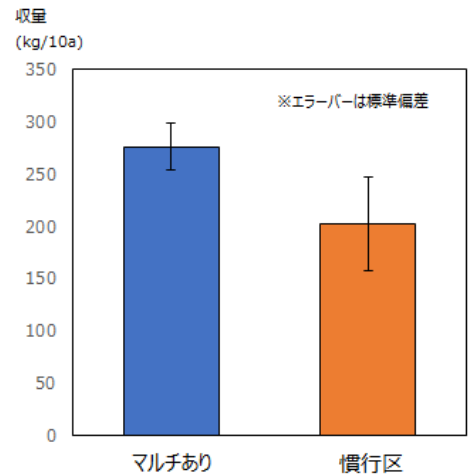


図3 収量の比較

成果の活用方法(又は期待される効果)

- 普及対象地域 椎葉村を中心とする中山間地域

留意点

- 高値で取引される椎葉在来アワを想定しており、取引単価により、マルチ栽培よりも慣行栽培の方が収益性が高くなる可能性があります。
- 薬草・地域作物センター畑地での試験結果です。